

当事者の家族の立場から

地域で共に生きるナノ

代表 谷口眞知子

今日のお話

- 「地域で共に生きるナノ」の紹介
- 今までの活動（高次脳機能障害に関連する分野）
 - 初期：立ち上げから平成21年半ばまで
 - 中期：平成21年半ばから平成24年度半ばまで
 - 後期：平成24年度半ばから今まで
- 埼玉県内の現状（高次脳機能障害や認知症への支援体制）
- 私どもの今後の活動（高次脳機能障害に関係する分野）

「地域で共に生きるナノ」の紹介

地域で生きるナノ

ちーむナノ

Café MILC

地域で共に生きるナノ

- 高次脳機能障害について啓発・支援を行っている任意団体
(平成13年6月～)
- 埼玉県の高次脳機能障害ピア・カウンセリング事業を受託
(平成21年10月～)
- 三郷市の認知症(オレンジ)カフェ事業を受託
(平成24年度～)

ちーむナノ

- 「地域で共に生きるナノ」の応援団
- 「地域で共に生きるナノ」の活動に賛同し、協力して下さっている方々と一緒に、「共に触れ合い、支え合い、参加すること」を目的に、様々なイベントに参加
- 障害者、高齢者、地域などの垣根を越えて予防活動、表現活動を行っています



Café MILC

- 「地域で共に生きるナノの拠点」（埼玉県東南の端）
- 東日本大震災の起きた翌週、平成23年3月19日に開店
- 地域の中で顔の見える関係を大切に、課題・情報などを共有し、孤立を防ぐ地域の拠点、たまり場をめざす
- 「からおけMILCみんなの会」、「巣鴨赤パンツを買いに行く会」、...



今までの活動

前期

中期

後期

初期

- 当初、家族だけでは限界を感じている3家族が集まる
- 定期的に集い、情報交換、地域の中で声をあげる
- 周りの方にも声をかけて高次脳機能障害の勉強会を開催
- その後、三郷市内の病院を巡り協力要請
- 三郷市地域自立支援協議会高次脳機能障害専門部会

中期

- 平成21年10月から、埼玉県東部地域で高次脳機能障害地域相談会
- 埼玉県議会議員、三郷市や越谷市の市議会議員の方々に働きかけ
- 三郷市医師会（医師会長）への働きかけ
- 平成23年度、高齢者と地域のつながり再生事業
高齢者等徘徊見守りSOSネットワーク事業（三郷市へ働きかけ）
三郷市においては、高次脳機能障害の人など障害者も対象に

後期 ①

- エリアを拡げて、県東部の市議会議員の方々に働きかけ
- 第6次埼玉県地域保健医療計画
高次脳機能障害への支援を精神疾患医療のところにも位置づけ
- 埼玉県および埼玉県内全域の市・町の障害者計画や障害福祉計画、高齢者保健福祉・介護保険事業計画などに意見を提出
- 第6期三郷市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
認知症施策のところ、若年性認知症や高次脳機能障害も対象に

後期 ②

- 政令指定都市、さいたま市への働きかけ
 - 平成24年12月 さいたま市に高次脳機能障害支援について要望書を提出
 - 平成25年1月から、さいたま市障害者更生相談センターが動き出す
 - 平成25年度、さいたま市しあわせ倍増プラン2013に「高次脳機能障害」
 - 平成25年10月から、さいたま市10区支援課、障害者生活支援センターを一次相談窓口として明確化
 - 平成25年10月から、さいたま市障害者更生相談センター「高次脳機能障害者支援」事業
- 引き続き、高次脳機能障害地域相談会の開催（今年度、さいたま市と共催）
- 平成26年度から、三郷市から認知症カフェ事業を受託
 - 月に2回、Cafe MILCで認知症カフェを開催（高次脳機能障害も対象）

後期 ③

- ナノ朝霞、ナノ越谷、ナノさいたま、ナノ新座
 - それぞれの地域の住人が動き出し、地元の役所に働きかけ始めている
- 埼玉高次脳機能障害連合会の結成（構成団体は以下の4団体）
 - 地域で共に生きるナノ(三郷市)
 - 一般社団法人交通事故被害者家族ネットワーク
 - 高次脳機能障害者を支える会「こもれび」(鶴ヶ島市)
 - NPO法人障害者による障害者の自立支援センター湧くわく探検隊(久喜市)
 - 今年度、埼玉高次脳機能障害連合会として埼玉県に要望書を提出

埼玉県内の現状

当事者・家族の立場で見ると

当事者・家族の立場で見ると

- 高次脳機能障害地域相談会には、その地域の当事者・ご家族が
- 埼玉県内の多くの市町村で、高次脳機能障害についての具体的な支援策がない
- 一方、高次脳機能障害診断基準で除外された認知症については、市町村での施策の整備が進んでいる
- さらに、軽度認知障害(MCI)についての支援施策も

私どもの今後の活動

当面は

当面は

- 市町村に働きかける活動を埼玉県全体で展開
- まずは、脳卒中の後遺症で高次脳機能障害となっている方々を浮かび上げさせていく
- 特に、40歳から64歳までの方々（早期発見、早期診断）
- 介護保険、障害福祉、生活困窮者対策など、支援策整備の働きかけ
- 「認知症でも、若年性認知症、高次脳機能障害でも、同様の支援を！」